



**EVの活用による地域課題解決に向けた
日産自動車の取り組み
～日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」～**

**日産自動車株式会社
日本事業広報渉外部
2025年1月21日**

日産の電気自動車（EV）開発の歴史

1947年にEVを市販化し世界50か国で販売

累計販売台数は、グローバルで約119万台、国内では29万台に到達



たま電気自動車（1947）
日産初のEV



日産リーフ（2010）



日産リーフ（2017）
基本性能を大幅に向上



日産アリア



日産リーフ



日産サクラ



日産クルッパEV



日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」

EVを社会課題解決に活かし、社会を変革する活動を自治体・企業・団体の皆さまと推進



脱炭素化への貢献 ライフサイクルでのCO2排出比較

製造～輸送～使用～廃棄に至るすべての段階において、EVはガソリン車に比べCO2排出を低減
政府の2030年度の電力構成を当てはめるとさらに低炭素化に貢献



強靱化への貢献 「走る蓄電池」の価値

＜災害時の給電能力例＞

①スマホ： **6,000台**充電可
(60kWh)



②一般家庭： **ほぼ4日分**の給電が可能
避難所（公民館）で**3日分**の給電が可能
(60kWh)



③エレベーター： **昇降100回往復**
※三井住友建設が都内高層マンション(43F建てビル)にて実証
(40kWh)



EVからの電力供給

定置型パワーコンディショナー（V2H）、可搬型パワーコンディショナー（V2L）を通して電力共有

家庭での利用例

定置型パワーコンディショナー（V2H）



設置イメージ

災害時の利用例（避難所での給電）

可搬型パワーコンディショナー（V2L）



＜災害時＞ 能登半島地震でのEV活用

2024年1月1日に発災後、1月3日から穴水町、珠洲市で電力源として使用
地域内での電力源確保や給電方法を啓発することの重要性を学んだ



＜平時＞ 自治体のイベントでEVを活用

イベントでの電源や先導車として使用し、環境・脱炭素啓発の機会として活用



キャンプやキッチンカーへの電力源

ライトアップ°



スポーツイベントの先導車

<交通課題> 地域交通手段としてEVを活用

乗り合いタクシーをEVにすることで災害時の電力供給源としても使用

1 台のEVが脱炭素・交通課題・災害対策に貢献

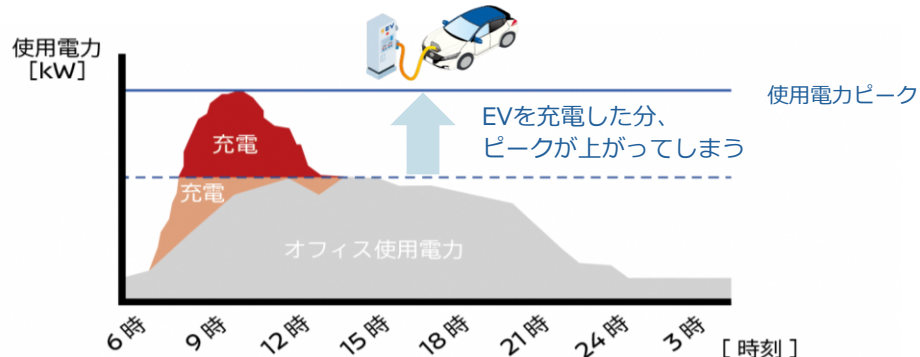


<エネルギーマネジメント> ニッサンエナジーシェア

複数台のEVの充放電をコントロールし、エネルギーの効率的な運用とモビリティの利便性を両立

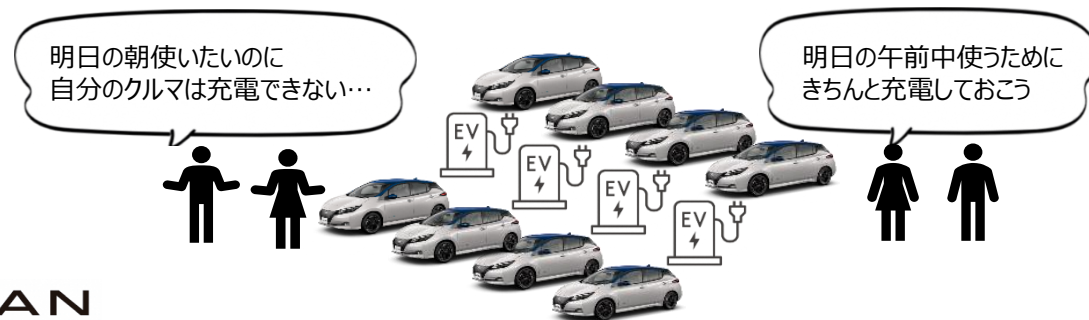
EVと充電器をそれぞれ同じ台数で導入する場合

課題① 同時充電により電力ピークが立ってしまう



充電器をEVよりも少ない台数で導入する場合

課題② 同時充電できず、車としての利便性が損なわれる



NISSAN
ENERGY
SHARE

生み出される価値



環境価値の向上

■事業の脱炭素化

- EVを電池として活用し、再エネの余剰を積極的に充電、電力需要が高まった時に放電し再エネ利用率向上

■移動の脱炭素化

- 再エネの発電量に応じて充電を調整し必要な電力を再エネで賄う



電気代削減

■ピークシフト

- オフィス使用電力ピーク時にEV充電を調整し、電気料金の増加を防ぐ

■ピークカット

- 電力使用ピーク時にEVからの放電し、使用電力のピークを低減させ、電気料金を削減



BCP確保



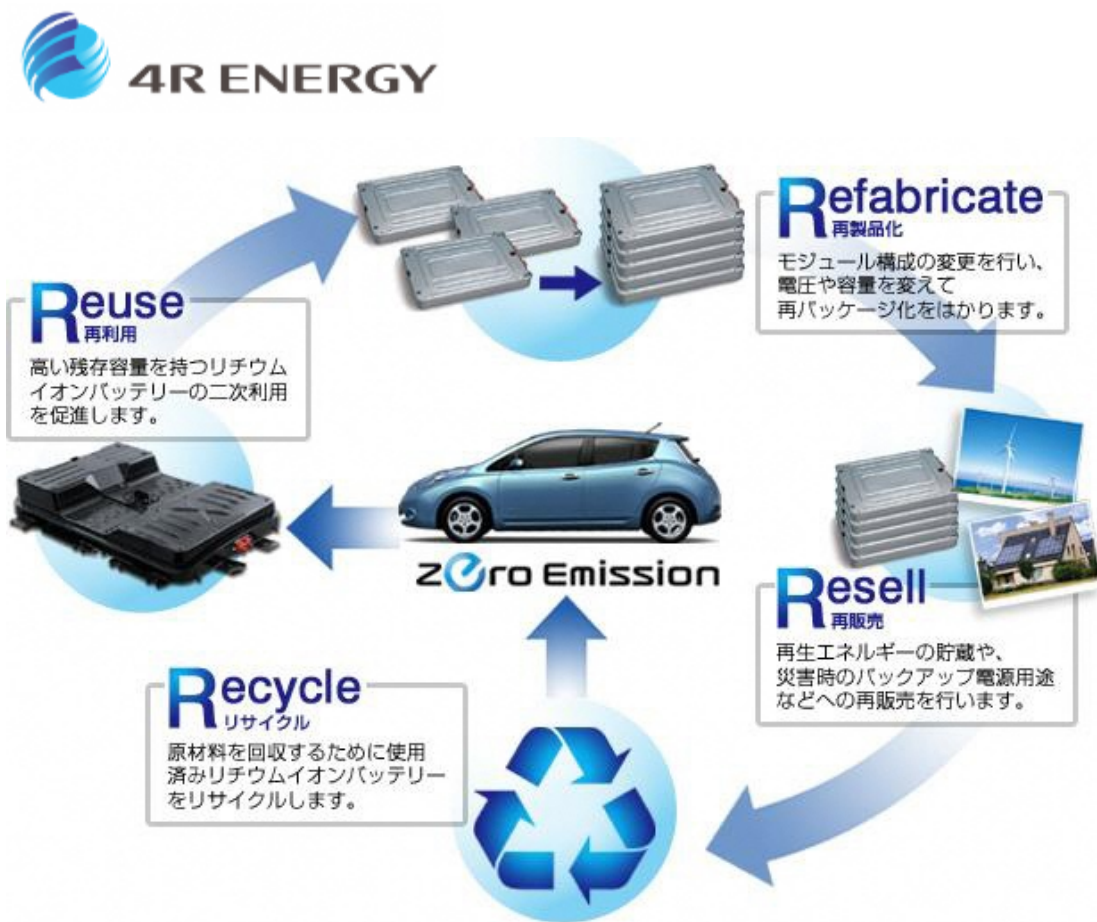
地域貢献

■災害時や平時での利用

- 災害に伴う停電時にEVから給電し事業継続に役立てる
- イベント等での電力源として使用し地域の賑わいに貢献

<CO2削減・資源循環> EVバッテリーの再製品化

使用済みEVバッテリーを再利用・再製品化・再販売・リサイクル



大型蓄電施設



工場バックアップシステム



踏切用バックアップ電池
鉛電池の代替（長寿命、メンテフリー）



ポータブルバッテリー
BCP, レジャー用



オフグリッド外灯
太陽光パネル＋再生電池パック
非常時に電池単体で使用可能

自治体・企業・団体との連携拡大

EVを地域課題解決に活用する「ブルー・スイッチ」連携は全国で270を超える



●：連携発表済み
自治体・企業所在地

2025年1月現在